

秋田合宿 報告書

8月31日から9月2日にかけて秋田県藤里町でのボランティア活動に参加した。今回は藤里町社会福祉協議会が行うきりりカリキュラムに沿った合宿であり、毎年行っている地域住民の方々との交流の他に藤里町の自然に触れることが出来た。私は2年ぶりの訪問だった。

8月31日

午前は一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問した。私が訪問したのは藤里から少し離れたところに住む男性だった。この方は2年前にも交流しており、私たちの訪問を暖かく受け入れてくださった。様々な話をした中で印象的だったのは、町までは車が必要であり藤里で催しがあってもなかなか参加できないし何をやっているのか分からないという話だった。藤里の町おこしの事業は非常に魅力的であり、活気を与えるものだと思うが、少し離れたところに住んでいる高齢者へのサービスなども行えたら良いと感じた。しかし、近所づきあいは密であり毎日友人が遊びに来るという話も聞いたので、そうした近隣住民との結びつきの強さは孤独を感じせず健康に過ごせる秘訣であると感じた。

午後はデイサービスへ訪問した。傾聴と踊りの出し物を行った。秋田での傾聴は方言が分からずスムーズにコミュニケーションが取れない点に苦戦したが、方言を教えてもらうことでコミュニケーションをとることができた。毎年私たちの訪問を心待ちにしてくださり、暖かい言葉と笑顔を沢山かけてくださる利用者の方々とふれあい、今後もこの交流を絶やしてはいけないと改めて思った。

9月1日

午前には社会福祉協議会の事業について説明をしていただいた。ひきこもりの就労支援を積極的に行っている藤里社協は全国的にも有名であり、改めてその説明や就労訓練の宿泊施設の見学をさせていただき非常に勉強になった。今回の説明で一番印象的であり面白いと感じたのは「町民全てが生涯現役を目指せるシステム作り事業」である。この事業は何もできない人はいないという考えの基、町民全てが何らかの仕事や役割を担い、互いに支え合うシステムになっている。人づくり、仕事づくり、若者支援という3つの事業が柱となっている。この中でも仕事づくり事業では新たな特産品を作る計画を行っており、非常に興味を持った。根っこビジネスと称し、わらびもちやくずもちの作成を行う。高齢者の方が知っている昔ながらの知恵を使いレシピを考えたり、若者の力を借りてわらびを育てるといった内容が組み込まれていた。すべての世代が協力し、地域の特産品を生み出そうとする事業は活気に満ちており、全ての世代が住みやすい町づくりにも繋がるのではない

かと感じた。

午後は北部地区の方々と交流し、その後藤里の自然を堪能した。北部地区の方々とは普段の生活についてお話していただいた。スーパーがある藤里町からは少し離れており、車が必要なので基本的には自給自足の生活であるという話を聞いて北部地区の方がパワフルな理由が分かった。頻繁に体育館で集まりがあり、レクや交流会なども行っているという。少子高齢化や過疎化が進む中、そうして交流し楽しみを作ることで充実した生活を送ると共に、介護予防にも繋がっているのだと感じた。その後の藤里散策では棚田や滝を見学した。棚田は初めて見たが、山奥での農業の厳しさを実感した。この時期は稲穂が黄色の実を付けていたり稗粟が落ちていたり一足早く秋を感じる事が出来た。滝は峨瑯の滝と銚子の滝を見学した。夏の暑さを忘れる涼しげな緑と透き通った水に癒された。銚子の滝は奥まったところにあり、岩場の窪みから水が落ちる様子は本当に徳利から注がれているような風景だった。こうした美しい自然が在ることを多くの人に知ってもらいたいと思った。

9月2日

午前は高齢者バレーボールチームとの試合に参加した。今まで何年間も相手をしていただいているが、全敗なので今年こそ勝つ気持ちで臨んだ。選手全員が65歳以上とは思えないほど活気とパワーに溢れている藤里のバレーボールチームは全員が積極的にそれぞれが出来る役割を果たしているところが印象的だった。最年長の方が試合で活躍している姿や、沢山動ける方やリーチの長い男性がチームメンバーをフォローしつつ得点を重ねていく姿は生き生きしていて、私たち大学生よりも声をあげ、笑いながら試合を楽しんでいた。それにつられ運動が苦手な自分も積極的に動くことが出来た。

午後は高齢者生活支援ハウスのぶなっちにて交流をさせていただいた。短い時間ではあったが、多くの利用者の方が交流スペースに出向いてくださり密な時間を過ごすことが出来た。年に1度の交流だが、覚えていてくださる方が多く、こうして待っていてくださる方を裏切らない様、秋田訪問の伝統を絶やさないようにしていかなければと改めて思った。高齢者の生活支援ハウスというのは自分の地域では見たことが無いが、少子高齢化に伴い一人暮らしは不安だが介護をしてもらいほどではないという高齢者の方にとっては非常に良い施設だと感じるので、こちらの地域にも今後普及していったら良いと思う。

最終日夜は、かもや堂で社協の職員の方と交流をさせて頂いた。かもや堂はもともとあったかもや食堂をガラス張りのカウンターキッチン付き施設に改装したものである。お洒落なデザインでどんな活動をしているのか町民の方も見えるので、新しくできた施設ではあるが親しみやすく利用しやすい施設であるだろう。こうした施設も若者にアピールしていくと集客に繋がるのではないだろうか。

今回の訪問で4回目の藤里だったがまだまだ知らないところが沢山あった。毎回訪問し、

私たち若者の訪問を喜び受け入れてくださる町民の方々を見ると多くの人が藤里を訪れ、地域活性化に繋がるといいと感じる。そのために私たちが出来るのは情報の発信ではないだろうか。今回参加させていただいた藤里 rec では、藤里の魅力を一つの動画にした。この動画を SNS を通して、まずは自分の友人に伝えることで地域活性化のお手伝いが少しでも出来るのではないかと思う。

多くの方のお話から、少子高齢化はますます進んでいると感じた。しかし地域活性化のために様々なイベントを考え行っていることもわかり、藤里のそうした前向きな姿勢が1番の魅力なのだと気づいた。今回はきりりカリキュラムに参加させて頂いたこともあり、こうした地域づくりの観点から藤里町を見ることが出来非常に勉強になった。学生生活も残り半年だが、今回の経験を活かして自身の学習に繋げていきたいと思う。